



深谷市長
新井家光

春を待って

年賀状が今年も「春」を運んできました。

旧暦の正月は確かに「春」ですが、現在の正月は盛冬の光景が広がります。しかし、

不思議と昨日までとは違う、再生の息吹を感じます。光は春を含んでいます。1月は「春を待つ」希望の月です。

太宰治の作品に「待つ」という掌編があります。毎日駅前のベンチで誰かを待つ女の子。第二次世界大戦が始まろうとしている時代の緊張と不安の空気を切り取った作品です。主人公が何を待つかについては、多くの識者が意見を出しています。ある人は「神」、ある人は「戦争の終結」、またある人は「大声で意見を表明できる時代」としています。主人公は最後に「けれども私は待っているのです。胸を躍らせて待っているのだ」と心を露呈しています。

既に、新聞などのメディアを通しお知らせさせていただきましたが、市で誘致いたしました（仮称）東都医療大学の開校予定が1年延期となってしまいました。この「広報ふかや」紙上でも平成20年4月開校と大きく取り上げ、多くの皆様からご期待をいただいていたことは、肌にひしひしと感じております。そのご期待に沿えなかったことは、本当に申し訳なく思っております。

この大学誘致は、市にとってまさに「待ちに待った」ものでした。市の将来の医療を考える上にも重要で、また、学生たちがまちを活性化し経済的な効果も多大です。準備が整わず今春の開校は見送りましたが、今後は万全を期し100%体制を整えて開校できますよう、市といたしましても十分なサポートをまいります。市民の皆様には今しばらくお待ちいただくとともに、今後とも、当大学設置に特段のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

備えを以って時を待ち、
時を以って事を興す 「管子」

特区申請が認められました
(特区提案)

市では、常設された通級指導教室の設置を進めておりますが、現在の国の制度では市立教育研究所など学校外の施設に、常設された通級指導教室を設置することは認められていません。

そこで、市では新たに建設を予定している市立教育研究所内に分教室として通級指導教室を設置することができるよう、国に対し規制緩和の特区申請をしました。

この申請に対して12月6日、文部科学省から「通級指導教室を分教室として学校外に設置することは可能」との公式な回答がありました。

このことは、国の規制を緩和し、深谷市が全国に先駆けて学校外の施設に通級指導教室の設置を可能にする新たな扉を開いたことであり、大きな前進と言えます。

教育研究所内に通級指導教室を設置することで
こんな効果が得られます

1 学校外に常設する通級指導教室が分教室として認められることで、通級する児童生徒は、出席扱いとなる。

2 他の学校へ通級することをためらう児童生徒が心理的に安心して通級することができる。特に中学生にとってはその効果が大きい。

3 通級指導教室と教育研究所や大学などの研究機関との連携により、専門家からの指導を直接子どもたちに生かすことができる。

4 教育研究所内に設置する通級指導教室を拠点として、指導者の育成を図ることができる。

5 通級指導教室での指導方法の研究や特別支援教育の研究を研究所と連携して進め、特別支援教育の推進を図ることができる。

6 市民ボランティアとの連携により、市民総掛かりで子どもたちの教育に当たるシステムを構築する足掛かりとなる。

「社会総がかり」で

子どもの教育にあたる



「深谷モデル」の創造

「深谷モデル」の創造
今回の規制緩和は、今後の深谷市での教育にさまざまな効果をもたらす。未来へ向かって輝く子どもたちの成長を支える上で大きな意味を持つものとなります。
市と市教育委員会では、まず最初の取り組みとして、「子どもたちの確かな成長のため、家庭、地域、学校、企業、社会、教育委員会、関係諸機関などが目指す方向を一つにして、連携し協働することが重要」と考え、現在建設を進めている（仮称）深谷市立教育研究所・福祉交流センターを拠点とした「深谷モデル」の創造を目指します。

（仮称）東都医療大学は

平成21年4月の開校を目指します

東都医療大学設立準備委員会は、深谷市に（仮称）東都医療大学（ヒューマンケア学部看護学科：収容定員400人）を平成20年4月に開校するために準備を進めてきましたが、大学設置のための認可要件を満たすまでには至りませんでした。

従来、大学を開校するまでの期間は2年を必要とされていましたが、規制緩和により1年で可能になったことから、1年の準備期間で開校に足りるものと判断し、平成19年4月の申請、同年11月の認可を目指しました。

結果として、1年の準備期間では開校までの事務を完了できなかったため、やむなく、開校予定を1年延期して、平成21年4月の開校を目指すことになりました。見込み違いを深く反省しております。

開校予定が1年延期となりましたことを市民皆様をはじめ、関係者皆様に深くお詫び申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

東都医療大学設立準備委員会
委員長 大坪 修